

令和8年度

公益財団法人名古屋みなと振興財団
事業計画書

令和 8 年度事業計画書

公益財団法人名古屋みなと振興財団は、名古屋港における海事思想の高揚と海洋文化の普及に努め、併せて観光事業の振興を図り、名古屋港の発展に寄与することを目的として各種事業を実施する。

令和 8 年度は、本財団が名古屋港管理組合から名古屋港水族館の 4 期目（指定期間 10 年）の指定管理者として運営を行う 4 年目であり、名古屋港ポートビル、南極観測船ふじ及びガーデンふ頭臨港緑園の各施設については、5 期目（指定期間 5 年）の 4 年目となり、引き続き、施設の安心・安全、公平・公正な利用及び管理運営の効率化を推進していく。

また、愛知・名古屋 2026 大会（アジア・アジアパラ競技大会）の選手団宿泊拠点がガーデンふ頭東側一帯に整備されることに伴い、本財団管理施設である駐車場、臨港緑園、名古屋港ポートビル、南極観測船ふじ、ポートハウス等の諸施設は順次、利用休止となる。

施設の利用休止が広範囲に及ぶ中、同大会の開催により国内外からの来港者の増加が見込まれる。本財団としては、蓄積されたノウハウを活かし、事前の案内周知や交通渋滞対策、多言語対応などの環境整備を徹底して行うとともに、大会関係者による選手団宿泊拠点の運営等の面においても、できる限り協力していく。

1 公益目的事業

（1）海事思想及び海洋文化の普及に関する事業

① 指定管理施設（名古屋港水族館）を活用した海洋生物の展示等

海洋生物の展示を通して海洋文化にふれあう場を提供する。

展示にあたってはテーマに沿った計画を策定し、生物の健康と飼育環境の管理を適正に行い、生物の特性を引き出す展示を行うとともに、飼育担当者等による解説活動やモニター、ライブカメラを用いた動画での生態・行動等の解説を積極的に行い、来館者への海洋文化の普及を促す。

イルカパフォーマンスについては、令和 7 年 3 月より、「鯨類の進化と地球環境」をテーマとして設定し、「Blue Echo」と題して新たに開始している。近年、イルカショーの是非や動物福祉への関心が高まっている社会的背景を踏まえ、社会教育及び環境啓発機能の更なる向上を図るとともに、来館者の関心が高いイルカパフォーマンスを活用して調査研究活動等を紹介し、名古屋港水族館のブランド価値向上に取り組む。

シャチに関しては、平成 29 年度からメインプールで「シャチの公開トレーニング」を実施してきたが、個体の健康状態や行動特性に十分配慮しながら公開内容を検討していく。また、トレーナーのスキルアップを図り、安定した飼育管理及び動物福祉の確保に努める。

令和 2 年 5 月にオープンした南館 3 階の常設展示室「エコ・アクアリウム」では、海洋

環境に関する啓発に努めていくとともに、愛知県、名古屋市等と連携を図りながら、SDGs（持続可能な開発目標）に関する理解の促進も行っていく。

特別展については、愛知・名古屋 2026 大会の開催を契機として、愛知・名古屋の魅力を広く国内外に発信し、特に諸外国からの来館者をもてなす趣旨のもと、地元弥富市が日本有数の生産地であり、日本文化を代表する魚である「金魚」をテーマに開催する。

加えて、カプセルトイを利用して展示生物の支援金を募り、海生生物への親近感を高めながら、水族館運営資金の確保に努める。

② 体験プログラムを通じた海洋文化の普及

小中学生を対象とした名古屋港水族館内でのスクール、広く一般を対象とした体験イベント、講演会など、主に水生生物に関する知識を深めるため、「君もドリトル先生になれるか!」、「もっと知りたいダーウィン教室」、「ナイトウォッチング」を実施する。

また、早朝の水族館観覧で生物への親しみを深める「水族館 de モーニング」等の企画プログラムを実施する。

③ 指定管理施設（名古屋海洋博物館・南極観測船ふじ等）を活用した海事に関する展示等

これらの施設において、所蔵している海事に関する資料を展示公開することにより、海事思想にふれあう場を提供し、来館者への海事思想の普及を促す。名古屋海洋博物館においては、船やガントリークレーンの本格的な操縦体験を行えるシミュレータなどの体験型の展示や、スマートフォンによるモバイル解説、オンライン動画配信サービスを活用することにより、学習効果の向上に努めていく。

今年度は、愛知・名古屋 2026 大会の開催を契機として、企画展「名古屋海洋博物館での宝探しゲーム～名古屋港で見つけるアジアのつながり～（仮題）」を開催する。名古屋海洋博物館、南極観測船ふじ及び展望室の3施設を周遊しながら、古代から現代に至る日本（名古屋港）とアジア諸国・地域とのつながりに関する展示の中のお宝を探すクイズラリーを実施し、同大会の開催機運を盛り上げる。

名古屋港ポートビル2階回廊ギャラリーにおいては、無料で利用できる市民ギャラリーとして、海に関する作品や、海に関わる人々の作品を中心に展示する。

また、SNSを用い、展示物の紹介等を積極的に行うことにより、海事思想により興味を持っていただき、港そして海をより身近なものとして感じることができるよう、施設の認知度向上を図る。

④ 体験プログラムを通じた海事思想の普及

広く一般を対象とし、海事に関する知識を深めるため、「星空観察会」、「南極教室」、「工

作教室（ペーパークラフト、3D 立体カード製作）」、「ボトルシップの作り方入門教室」等の体験プログラムを実施する。

⑤ 機関紙等による情報提供

名古屋港水族館機関紙「ニュースレターさかなかな」、生物情報誌「新着！海の生き物レター」等をタイムリーに発行し、野生動物や名古屋港水族館に関する詳細な情報をホームページ上にて提供するとともに、二次元バーコードを館内に掲示するなどの方法により、来館者への周知に努める。

また、名古屋港水族館では来館前後を含めたより深い探求的な学びを可能にする学習教材「かんさつノート」（小中学生向け）や「環境ノート」（中学生以上向け）を発行し、館内配布のほか、ダウンロード版の提供や学校団体向け来館誘致ツールとして、幅広く活用していく。

⑥ 学生の職場訪問等の受入れ

中学生を対象とした職場訪問・職場体験、学芸員課程を履修している大学生を対象とした博物館実習などを受け入れ、名古屋港水族館及び名古屋海洋博物館等での体験プログラムや解説を実施する。また、学校団体等へのレクチャー、大学への非常勤講師の派遣を行うことにより、海洋文化及び海事思想の普及を図る。

名古屋港水族館の団体向けレクチャーにおいては、これまで 4 つのプログラム（「水族館の仕事」、「水族館の見どころ」、「ウミガメについて」及び「環境」）を実施していたが、より多くのニーズに応えるため、令和 7 年度から「ウミガメのサバイバルゲーム」、黒潮大水槽のバックヤードも見学できる「水族館の裏側のお話」を新規のプログラムとして加えた。これら 6 つのプログラムを、多様な団体向けのレクチャー事業として効果的に活用していく。

⑦ ボランティアの育成、活用

名古屋港水族館では、展示生物の解説やスクール等の補助を行う教育普及業務として、解説ボランティア制度を導入している。この制度は、ボランティアに対する研修や解説活動などを通じて、自己啓発や自己実現といった生涯教育の機会を提供するとともに、習得した知識や解説スキルを活用し、来館者の興味や感動を喚起することを目的としている。

解説活動は、南館「タッチタンク」、「ウミガメ回遊水槽」及び「ペンギン情報コーナー」、北館「進化の海」で実施し、ボランティア及び来館者へ海洋文化の普及を促していく。

タッチタンクでの解説活動では、動物福祉に配慮した新たな観察方法を推進するとともに、コロナ禍によって中止していた新規ボランティアの募集を 7 年ぶりに再開し、後進の

育成に努める。

また、名古屋海洋博物館・南極観測船ふじにおいても、展示解説などの教育普及業務補助及びふじの塗装等の修繕を行うボランティア制度を実施し、ボランティア及び来館者へ海事思想の普及を促していく。

⑧ 海洋生物等の調査研究

海洋生物等の自家採集及び国内外の関係機関と連携して生物収集を行うほか、血統の登録管理や他園館との生物の交換又は貸借の調整を行うとともに、海洋生物等の飼育研究及び希少生物の飼育繁殖研究、フィールド調査、保護活動等の調査研究活動を実施する。

特に鯨類に関しては、繁殖による展示生物の安定的な確保及び健全な飼育は重要課題であり、様々な研究機関の協力を仰ぎながら、今年度も継続して技術開発を進める。

また、名古屋港内に冬季に来遊し、水産資源保護法で管理されている小型鯨類スナメリの生息数調査を大学や名古屋市内の専門学校と共同で取り組む。平成 29 年度までの調査を基に、平成 30 年度後半から港内全域での本格的な調査を開始した。今年度も調査を継続し、生物学的な基礎研究を進め、その研究成果の紹介に努める。調査費用に関しては外部の研究助成金に積極的に応募する。

米国スタンフォード大学、高知大学などと共同で令和 4 年から 5 か年計画で開始した、名古屋港水族館で育成したアカウミガメの北太平洋中部の東端における回遊経路調査（STRETCH（Sea Turtle Research Experiment of the Thermal Corridor Hypothesis））を今年度も継続する。当初は令和 8 年放流個体の追跡まで（令和 9 年まで）の計画であったが、令和 9 年以降の放流調査継続を検討している。

（2）ガーデンふ頭における賑わいの機会と場を提供する事業

① 名古屋港観光施設協議会の運営事業

ガーデンふ頭地区を中心とした観光施設等からなる名古屋港観光施設協議会を通じて、相互の情報交換や連携を図り、名古屋港の観光客誘致に向けた観光推進 PR、誘致営業・宣伝事業等を行う。

観光キャンペーンの一環として、観光展「ゴーゴー名古屋港！」を実施するとともに、県内外の幼稚園や学校関係者、国内旅行やインバウンドを取り扱う旅行代理店等への訪問や聞き取りを行う。また、関係観光振興団体が主催するインバウンド営業活動への参画、誘致営業、PR 事業などを実施する。

② 情報誌等の発行

名古屋市内の小中学校の PTA 新聞に、名古屋港水族館とガーデンふ頭の観光施設情報

記事「すいぞくかん便り」を掲載し、児童生徒と保護者の来港意欲を喚起する。

このほか「名古屋港ガイドマップ GoGo 名古屋港」を発行し、観光施設 PR と来港者の利便性向上を図る。

③ 各種観光団体及び市内交通機関との連携を図る事業

県内の観光関連機関が主催するイベントや観光推進事業等に参加し、協働して観光振興と PR に努めるとともに、観光施設等関係者との連携及び情報の共有化を図る。

また、名古屋市交通局と連携して、市営交通機関利用者に対して本財団管理施設の料金割引を実施することで、公共交通機関の利用促進と来港者増加を図る。

さらに、「名古屋港水族館パートナーシップホテル」制度を運用し、近隣地域の宿泊施設と連携して、ガーデンふ頭諸施設への積極的な誘客に努めていく。

④ 指定管理施設（ガーデンふ頭臨港緑園・ジェティ等）を活用したイベントの開催

昨年度に引き続き、「ウェルカムポートフェスタ」を実施し、港に賑わいを創出するとともに、親しまれる港づくりを推進する。

⑤ 指定管理施設（ガーデンふ頭臨港緑園・ジェティ）における賑わいの場の提供

ガーデンふ頭臨港緑園及びジェティの運営を通じ、多彩なイベントの開催を積極的に支援し、更なる賑わいの創出を図る。

また、ガーデンふ頭臨港緑園は日常的に地域住民の憩いの場として親しまれており、愛知・名古屋 2026 大会開催に伴う利用休止エリアを除き、緑地維持業務、花壇整備等を通じて、緑豊かで快適な環境づくりの推進に努める。

2 公益目的事業以外の事業

管理運営する施設の利便性を向上させる事業

ミュージアムショップ、レストラン、売店及び自動販売機の運営や「名古屋港水族館の営業時間外利用」を促進する。

ミュージアムショップにおいては、開館 40 周年を記念して販売を開始した南極観測船ふじ関連グッズの売上が好調であったことから、今年度はバリエーションを追加して販売する。

「名古屋港水族館法人サポーター会員制度」を運用して名古屋港水族館の活動への賛同と事業協力を募り、公益目的事業を補完する。